



金谷川小だより

かなやがわ小フランドの創造

令和3年 3月18日
福島市立金谷川小学校
児童数 81名
校長 宋戸 与一

6年生を送る会

企画から運営まで自分たちで学校全体を仕切る5年生の大仕事。この1年、金谷川小をけん引してきた6年生への感謝の気持ちを、5年生が中心となって演出しました。下級生からの“ありがとう”の気持ちに6年生のフロアは温かな空気に包まれました。

各学年の子どもの真剣で一生懸命な姿。6年生の姿を見て、下級生がかなやがわ小ブランドを引き継いでくれるのだと実感しました。



“感動”が子どもを成長させる



鼓笛の引継ぎ。
ついに5年生にバトンが渡されました。

これからも、子どもたちの身近にいる教師と保護者が「感動する心」をもち続けたいと思います。喜びの多い豊かさに包まれて、今しかできない子育てを楽しみましょう。学校教育も家庭教育も、ともに大きな「感動」を得られる素晴らしい営みです。コロナ禍でも子どもたちの成長に感動できたのは、いつも子どもたちを見守り支えてくださる地域の方々・保護者の皆様、そして熱意ある教職員のおかげです。来年度も一人一人の子どもたちの成長を喜び合える一年間にしたいと思います。

“ほめる”・・・何をほめていますか？

先日、学力検査（NRT）の結果をお渡ししました。

- ◆「よかったところ」をほめてあげてください。
- ◆「がんばってほしいところ」を把握してあげてください。

ほめられるのはうれしいことですが、そのほめ方で違いが出ます。「何点以上取ったら〇〇買ってあげる！」という結果に対するほめは効果が長続きしません。～これまでの経験から（笑）

それよりも、毎日の中でのちょっとしたことをしっかりほめることが、子どもたちの心の栄養になることは明らかです。なぜなら、結果に対するほめは結果が伴わなければ「ダメ」な人間であると脳にインプットされてしまうからです。では、何をほめるかという、そこまでの取組をほめてあげましょう。例えば点数が良くなくても以前より頑張っていたならば、その頑張りをほめる。自分の頑張りを認めてもらいほめてもらう経験をすることで、心の栄養が満たされ次へ取り組む力が湧いてきます。

今年度の学校だよりも、今回で最終号となります。この1年間、新型コロナウイルス感染症感染拡大により、例年までと同じ内容の教育活動を行うことが難しくなったことで、子どもたち、保護者・地域の皆様にはご心配、ご負担をおかけしました。そのような中でも多大なるご理解・ご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。